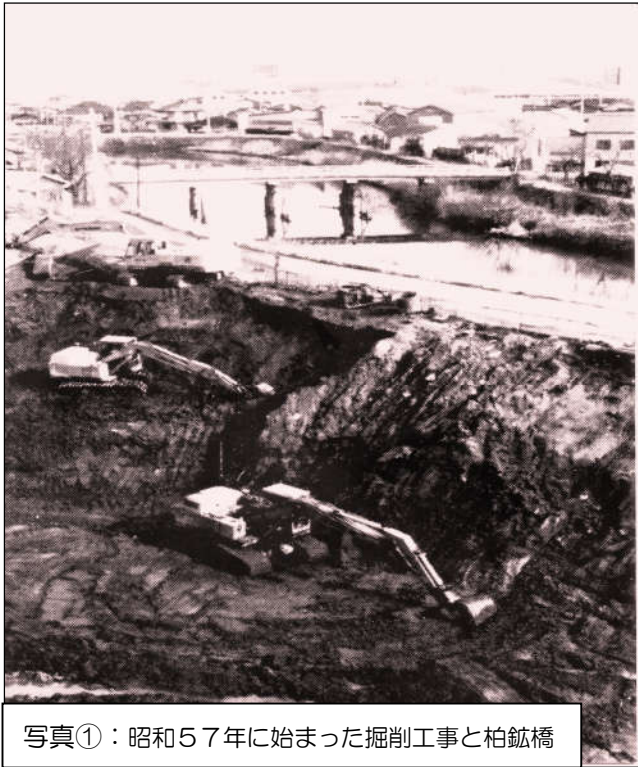


「柏崎の橋」

36 柏鋳橋（大久保）

柏鋳橋は、大久保二丁目地内と新橋地内の、鵜川を挟んで両岸にあった帝国石油の敷地を結ぶ橋であったが、昭和53年の6、26水害を契機とした鵜川の河川激甚災害対策特別緊急事業が、昭和59年3月に完成して鵜川の川筋が現在の形に変わり、帝国石油の敷地が地続きになったことによって取り壊されたものである。（写真①）



写真①：昭和57年に始まった掘削工事と柏鋳橋

明治42年発行の「柏崎華街志」付属地図には、柏鋳橋が記載されていないが、柏崎市史資料集では、写真②は大正4年との記述があることから、柏鋳橋はこの間に架けられたものと思われる。

柏鋳橋に隣接する鵜川東側土手上は、「鵜川の桜」「日石の桜」と呼ばれる桜の名所であり、地元新聞には剣野山後天楼付近の桜と並び、開花情報が掲載された（昭和5年4月11日付け柏崎日報）ほどだったが、昭和27年の鵜川改修により、この桜（写真③）を見ることはできなくなった。



写真②：
小竹コレクション絵葉書より



写真③真貝新一氏寄贈写真より

なお「柏崎華街志」付属地図で、柏崎駅前の現在の日石町地内に、宝田会社製油所と記されているのは、大正10年の日本石油との合併前だったことによる。

日本石油は明治21年に本社を石地村に置いて設立し、明治32年に大洲村大久保に本社を移転した。本社は、大正3年に東京に移転し、昭和17年9月に戦時統制により、前年に設立された国策会社である帝国石油に、鋳業部門を譲渡した。

その後何度かの変遷を経て、日本石油はJXホールディングス（株）、帝国石油は国際石油開発帝石（株）となって、現在に至っている。

●参考にした本

「柏崎華街志」 小田金平編者（384 オタ）

「柏崎市史資料集 近現代篇3上・下」

柏崎市史編さん委員会編（224 柏シハ）

「こどものための柏崎物語 続」 笹川芳三著（224 ササ）